

2025年度 町田市立町田第二小学校 学校経営計画・学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

令和8年3月31日

学校教育目標	思いやりのある子ども 考える子ども じょうぶな子ども	学校経営の重点	本校の子どもたちに本当に必要な学力を育む授業力の向上
○目指す学校像……①思いやりのある子どもと協力しあう学校 ②学びに意欲的な学校 ③学びの楽しさを味わう学校 ④保護者と地域とともに子どもを育てる安心・安全な学校 ○目指す児童像……①自ら学ぶ意欲をもつ子ども ②自ら考え行動する子ども ③自ら学びを深め、社会に貢献する子ども ○目指す教員像……①人間関係を大切にし、授業を大事にする教員 ②教育課題に前向きで、互いに学び合い、高め合う教員 ③子どもや保護者の声に耳を傾け、対応できる教員 ④当たり前のこと当たり前にできる教員 ⑤子どもと一緒に成長する教員		重点目標の成果と課題	(成果)学校経営計画や町田教育プラン24-28にある、「学び続ける力」を意図して授業が教育改革を求めている。児童に授業から育む学びを支える授業に取り組みしていることも、児童が意欲的に学んでいることになっている。 (課題)地域連携や人材育成などについて、各教科や総合的な学習などを通して、児童の学びが地域や保護者の力を借りながら、開かれたり、開かれたりしていることについて考え、来年度、さらなる取り組みを深めたいと考えている。

領域	教育プランに基づく経営目標	中期・短期経営目標	具体的方策	取組指標	平均	評価	成果指標	○%	評価	分析コメント	改善策	学校関係者評価	評価
社会に開かれた教育課程の実現	目指す学校及び子どもの姿を家庭や地域社会と共有・連携した教育課程を実施する。	地域の環境及び人材を生かした体験的活動を企画し、実施する。	地域人材の活用をはじめ、地域での学習活動への協力や、保護者と連絡を密に取りながら児童理解を進めるなど協力を得る。	4.年間5回以上の実施 3.年間4回以上の実施 2.年間3回以上の実施 1.年間2回以上の実施	2.4	C	A.児童アンケート満足率90%以上 B.児童アンケート満足率80%以上 C.児童アンケート満足率70%以上 D.児童アンケート満足率60%以上	81.2	A	・教員はVCと連携を図り、地域連携担当教員とVCとの連携はできている。しかし、その両者が地域と連携した学校教育活動年間計画を見直し、教育活動を展開することができた。また、命の授業やキャリア教育、地域清掃活動等での学習協力者を新規に開拓することもできた。 ・HPや学校だより等を活用して地域、保護者への情報発信をすることができた。また、保護者アンケートにおいても、肯定的な評価を約90%以上を得ている。	・地域連携担当教員とVCとの連携はできている。しかし、その両者が地域と連携した学校教育活動年間計画を見直し、今年度において、開かれたり、開かれたりしていることについて考え、来年度、さらなる取り組みを深めたいと考えている。	○フォームでアンケートを実施することで、集計がしやすかったり、結果も現やすかったりという良さもある。しかし、紙で行うアンケートより、回答率を上げることは難しいことを理解して進めた。	A
			学校・学年だよりやホームページの学校日記に教育活動の様子を発信し、様々な取組への理解を得る。	4.年間4回以上の更新 3.年間3回以上の更新 2.年間2回以上の更新 1.年間1回以上の更新	3	B	A.保護者アンケート満足率80%以上 B.保護者アンケート満足率70%以上 C.保護者アンケート満足率60%以上 D.保護者アンケート満足率50%未満	82.6	A				
確かな学力の育成	授業改善を進め、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と思考力、判断力、表現力等の育成とともに、主体的・対話的で深い学びを実現する。	授業をデザインする8つの取組を踏まえ、子どもが分かる「楽しい授業」を展開する。	授業改善を進め、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と思考力、判断力、表現力等の育成とともに、主体的・対話的で深い学びを実現する。	4.90%以上の授業で実施 3.80%以上の授業で実施 2.70%以上の授業で実施 1.70%未満の授業で実施	3.3	B	A.児童アンケート満足率90%以上 B.児童アンケート満足率80%以上 C.児童アンケート満足率70%以上 D.児童アンケート満足率60%未満	87	A	・「確かな学力に関する項目については、児童及び保護者アンケートより肯定的な評価を約80%以上を得ている。QubenaなどのICTを活用しての授業は進められているが、MNE公開のみならず、授業参観等でも保護者に対してきている。	・QubenaやICTの活用については、学年、学級や取り組む教科にもまだ偏りがあるのが現状である。ICTを活用しての授業は進められているが、MNE公開のみならず、授業参観等でも保護者に対してきている。	○Chromebookの活用については、低学年の使用開始時期を早めたり、使用する際の支援を保護者やICT支援員に協力をお願いしたり、来年度も丁寧に進めている。	A
			学習への興味・関心を高め、主体的に「学び続ける」子どもを育てる。	4.90%以上の授業で実施 3.80%以上の授業で実施 2.70%以上の授業で実施 1.70%未満の授業で実施	3.1	B	A.保護者アンケート満足率90%以上 B.保護者アンケート満足率80%以上 C.保護者アンケート満足率70%以上 D.保護者アンケート満足率60%未満	80	A				
豊かな心の涵養	多様性を尊重し、自分と共に他者を大切にすることを意欲・態度を育てる。	生命を大切にやる心、規範意識等を育む。	生命を大切にやる心、規範意識等を育む。	4.90%以上の指導面 3.80%以上の指導面 2.70%以上の指導面 1.70%未満の指導面	3.7	A	A.保護者アンケート満足率90%以上 B.保護者アンケート満足率80%以上 C.保護者アンケート満足率70%以上 D.保護者アンケート満足率60%未満	87.5	A	・毎月実施している「心のアンケート」及び年2回行っている「ふれあい月間」を通して、児童の様子を把握するとともに、「いじめは絶対に許されないこと」を繰り返し指導している。それにより、児童のいじめに対する意識も高まり、初期対応に繋がっている。また、関係機関とも情報も共有し、課題や問題の解決に組織を活用して、当りてきている。今後も継続していく。	・良いこと、悪いことをはっきり認識させながら指導している。「いじめは絶対に許されないこと」を繰り返し指導している。それにより、児童のいじめに対する意識も高まり、初期対応に繋がっている。また、関係機関とも情報も共有し、課題や問題の解決に組織を活用して、当りてきている。今後も継続していく。	○教員のいじめへの認識が高まってきているので、「いじめは絶対に許されないこと」を繰り返し指導し、児童の意識と行動も高めていきたい。	A
			児童の自己有用感を高め、人との関わりを通して自分も友達も大切にできる態度を養う。	4.90%以上の指導面 3.80%以上の指導面 2.70%以上の指導面 1.70%未満の指導面	3.6	A	A.児童アンケート認知率90%以上 B.児童アンケート認知率80%以上 C.児童アンケート認知率70%以上 D.児童アンケート認知率60%未満	88.8	A				
健やかな体の育成	正しい生活習慣を身に付けさせ、丈夫な体とたくましい心を育てるとともに、自助・共助・公助の力を身に付ける安全指導・安全教育を充実する。	運動の日常化と健康教育及び食育の充実を図り、基礎体力の向上を図る。	運動の日常化と健康教育及び食育の充実を図る。	4.90%以上の指導面 3.80%以上の指導面 2.70%以上の指導面 1.70%未満の指導面	3	B	A.児童アンケート満足率90%以上 B.児童アンケート満足率80%以上 C.児童アンケート満足率70%以上 D.児童アンケート満足率60%未満	82.4	A	・保護者アンケートで、肯定的な評価を81%得ているが、児童が体を動かす機会が減っていることを感じている。体育の授業だけでなく、体育朝会や年2回の体力向上週間も含めて、児童が体を動かす機会を設けたり、楽しいと感じる時間を作ったりするよう工夫して取り組んでいる。	・Chromebookやスマートフォンのネットマナートラブルについては、増加傾向にある。そのため、低学年からSNSの指導をし、家庭への協力も引き続き行っていく。	○学級活動等での食育や健康教育において、年間指導計画に合わせた学習を適正に行っていく。また、保護者への情報として学習活動や内容をより多く、発信していく。	A
			安全な環境を整備し、自己・他者の命や心身を守る力を育成するための全校体制を徹底する。	4.90%以上の指導面 3.80%以上の指導面 2.70%以上の指導面 1.70%未満の指導面	3.7	A	A.保護者アンケート満足率90%以上 B.保護者アンケート満足率80%以上 C.保護者アンケート満足率70%以上 D.保護者アンケート満足率60%未満	81.9	A				
その他			自分の命は自分で守るを合言葉に避難訓練、交通安全指導、不審者対策など日頃より指導を徹底する。	4.90%以上の指導面 3.80%以上の指導面 2.70%以上の指導面 1.70%未満の指導面	3.6	A	A.保護者アンケート満足率90%以上 B.保護者アンケート満足率80%以上 C.保護者アンケート満足率70%以上 D.保護者アンケート満足率60%未満	86.2	A				

取組指標の評価基準(結果数値からABCD評価へ)	成果指標評価基準	学校関係者評価の評価基準例
取組指標平均 3.5以上 ⇒ 評価A 取組指標平均 3以上3.5未満 ⇒ 評価B 取組指標平均 2以上3未満 ⇒ 評価C 取組指標平均 2未満 ⇒ 評価D	成果指標平均 80%以上 ⇒ 評価A 成果指標平均 70%以上 ⇒ 評価B 成果指標平均 55%以上 ⇒ 評価C 成果指標平均 55%未満 ⇒ 評価D	A⇒ 取組・成果ともに十分評価できる B⇒ 取組・成果ともに評価できるが、さらに改善したい C⇒ 目標達成には至らないため、次年度の改善が必要 D⇒ 重要な課題であるため、次年度、重点的に改善

※ 学校独自の設定する場合は、枠内を修正明記してください。
 ※ 学校からの十分な説明をもとに、学校運営協議会で成果と課題、改善点について協議する。